

# 『東京と非東京の同時解』

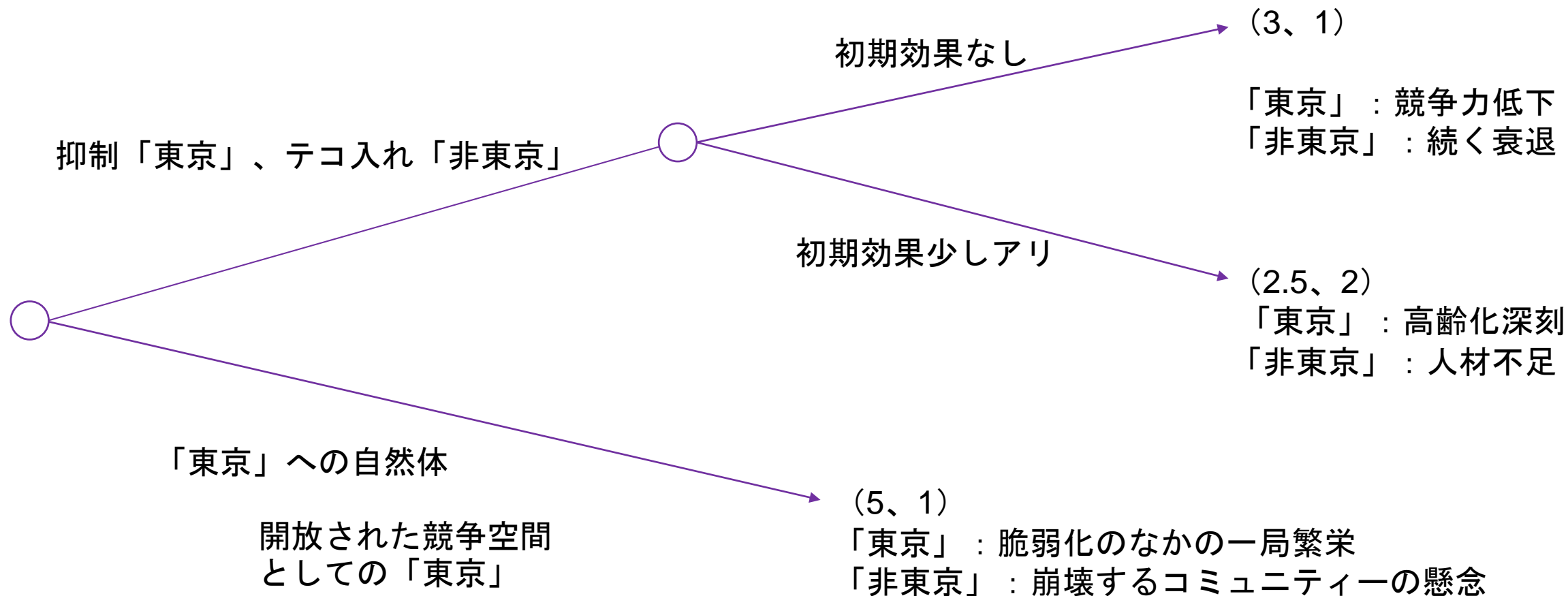
---

2014年11月4日

田中 直毅

# 序論：negative sum gameを払拭しきれないおそれ

(「東京」の利得・「非東京」の利得)



# 本論：「東京」と「非東京」の同時解を求める 7つの論点

# 1.開かれた競争空間としての「東京」

「東京」優遇策で「非東京」の自然消滅の可能性が高まったわけではない。

●脱共同体行動のリスクとリターン （「非東京」の利得、政府の利得）

農業保護の存否 「非東京」にとって の選択肢	営農に対する自由な取り組み	高関税・補助金づけの農業政策
主体的取組の選好 (proactive)	(1、4)	(-1、1)
保護策への依存 (reactive)	(-1、-1)	(6、5)

## 2. 派生サービス需要の広がりの欠如によるQOLの劣化

「東京」のQOLの劣化は「東京」の突出力の急速な低下によってもたらされたものである

### ● 「東京」の魅力とその衰退

「東京」にとっての 選択肢 <div style="text-align: right; font-size: small;">             グローバル・コンピ              テーションの穏急           </div>	グローバリゼーション展開は穏やか	グローバリゼーション展開は急
大量生産・大量販売型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマート・プロフィット</li> <li>・派生サービス需要の持続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利潤の消滅過程</li> <li>・賃金水準の低下</li> <li>・サービス需要拡大の停止</li> </ul>
新需要への挑戦を繰り返す マーケッター型	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利潤の分布の不均質な広がり</li> <li>・派生サービス需要の個性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームマーケットでの新サービス需要の顕在化</li> <li>・新マーケッターの海外進出</li> </ul>

### 3.農業保護による地域の活力不足と高年齢世代への悪影響

「補助金の割り付け」は終了しつつあるが、高齢者人口の「非東京」における急速な減少により、所得移転の要因は細くなり、相続を通じて資金移転も生じようとしている。

#### ●保護による既成秩序と新陳代謝の消失

<div style="text-align: right;">自助・共助・公助</div> <div style="text-align: left;">二つのカテゴリー</div>	公助依存の社会保障	自助・共助の活動領域の拡大
depopulated situation (自然消滅のおそれ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得移転の停止</li> <li>・拠出と受給のバランスの一層の悪化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保険のバランス回復への取り組み</li> </ul>
reformist movement (内なる革新)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所得増のメカニズム</li> <li>・新拠出者の登場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい概念づくりへの挑戦</li> </ul>

## 4. 同一波動に乗り合わせるに至った「東京」、「非東京」

ネガティブ・サムの状況を克服しようとする方向性の打ち出しが「東京」、「非東京」の双方で開始されつつある。

●プラットフォーム・アズ・ア・サービス（PaaS）やインフラストラクチャ・アズ・ア・サービス（IaaS）を通ずる地域横断的革新

二つの日本 新旧の社会規範	「東京」の選択肢	「非東京」の選択肢
縦割り管理の官庁システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「霞が関」との距離</li> <li>・グローバルS・C・N (サプライ・チェーン・ネットワーク)</li> </ul>	「距離の暴力」
PaaS IaaS	core business による突出と瞬発的供給システムづくり	サテライト型の企業活動

## 5. ポスト・モダンの純化軸と差異化軸

「東京」の純化軸、「非東京」における差異化軸は、ともにポスト・モダン（脱近代）への踏み出しとして記述しうる。

### ●二つのポスト・モダン

二つの ポスト・モダン軸	二つの日本	
	「東京」	「非東京」
純化軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「非東京」との分担のもつ経済性</li> <li>・純化を通じてのグローバル面での突出</li> <li>・新サービス需要の派生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のシステムからの離脱を通じての新システムの模索</li> <li>・MOOC (massive open online collage)</li> </ul>
差異化軸	<p>地域内における分担と分掌</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・捨捨選択を通じての新しい核づくり</li> <li>・コミュニティーのもつ統合性への目線</li> <li>・近隣圏との提携</li> <li>・開かれたグローバリズムの担い手</li> </ul>	



## 6. 備えなく「一億総中流」の崩壊

グローバルイゼーションに備えなく対応すれば、「中産階級」の希薄化に結実する。

### ●コモディティ化の帰結

マネジメントの 関心領域 / マネジメントの 新旧	要素技術に関するR&Dや 単位費用削減へのこだわり	働き手側のdiversityへの関心
commodityへのこだわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者から反応を得られず</li> <li>・cut throat competition</li> </ul>	問われる企業としてのサステナビリティ
未だ手にできない「質」や「サービス」への希求	日本企業はチャレンジ中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新領域の複合サービス</li> <li>・新サプライ・サイドづくり</li> <li>・新需要の引き出し</li> </ul>

## 7. 新付加価値に基づいた自負心に依存する職分の確保が可能となる グローバルイゼーション

グローバルイゼーションを地球規模の裾野の広がりを受け止めれば、純化軸また差異化軸のもとで新付加価値づくり、そしてディーセント・ジョブ（自負心に依拠する職）に至る道を構想しうる。

### ●純化軸と差異化軸の顕在化手法と累積的展開の可能性

オリエンテーション	手法 backward induction 後から前に向かって「解」を求める	forward deduction 後続の展開を先導する「解」
純化軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験値からの省察をもとに原点の再点検を行う</li> <li>・立脚点を再定義し、新しい展開を模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「選択と集中」によりエッジを磨く行動</li> <li>・新潮流の乗り合いが生ずることを当初より想起</li> </ul>
差異化軸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありえたであろう差別化を求めて、戻れるところまで回帰し、分岐の幅を広げる</li> <li>・一見グローバルイゼーションに距離を置く、後退主義に映ることはありえよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行者利得の領域の模索は可能</li> <li>・「近過去の日本」の否定による新現実の組み上げ</li> </ul>